みぬま通信 第82号
2020年04月

見沼たんぼくらぶのイベント

夢中になったサツマイモ掘り

さいたま市緑区の案山子公園の近くに在るこぐま保育園です。

１０月８日、年長クラスの１９名の子どもたちが、サツマイモ掘りを体験させてもらいました。子どもたちは一生懸命土を掘り、サツマイモの先端が土から見えてくると夢中になって掘っていました。大きなサツマイモの収穫に大喜び。サツマイモが大きかったので、大人も掘る手伝いに夢中になってしまい、写真を撮るのを忘れてしまいました。

掘ったサツマイモは、焼き芋にし、もう１回は子どもたちが　芋・ネギ・大根・人参を切り釜で芋汁を作って食べました。

焼き芋を作るにあたっては、子どもたちが濡れた紙で芋をくるみ、また、アルミホイールでさらに包み、準備をしました。　素敵な体験をありがとうございました。

（こぐま保育園　　増永　久美子記）

斜面林の体験学習ー落葉かき

２０１９年１２月８日（日）午前、男女８名のボランティアが大宮体育館南側に広がる大和田緑地公園特別緑地保全地区に入った。斜面林の管理基地・多目的広場で、熊手を使った落葉かきである。当地には、クリ林・コナラ・クヌギ幼樹畑・倉庫・作業広場等がある。

市民の有志がコナラやクヌギのドングリを１年かけて育てていただいた可愛らしい幼樹を当地の畑で、大きくする。ほどよく成長したコナラとクヌギの苗木は、さいたま市内各地の、さいたま市みどり愛護会管理の雑木林に補植される。

当斜面林は、２５年前は、暗い自然林に遷移を始め、花が少ないから昆虫が去り、実が少ないから小鳥が去った。それが、森のボランティアによって、暗くなく、明るくなく、木洩れ日が林床に届く程度になった。

こうして、生き物の楽園によみがえり、林床にはお花畑が広がり、CO_2を大量に吸収する環境保全林として大きな役割をはたしている。

（小野　達二記）

見沼たんぼくらぶのイベント

見沼たんぼの野鳥観察

つい先日までの春のような暖かさから一転して、冬の季節に逆戻りです。２１名の方が参加して、野鳥観察が始まりました。

建物裏側の椿が満開です。メジロがきましたが、

花に入らず脇の常緑樹に飛び込みました。何故かなと周りを見るとすぐ横に嘴の付け根を花粉で真黄色にしたヒヨドリがいて、椿の花を見張っているのです。この時期に咲く花は、花粉媒介を昆虫ではなく鳥に頼んでいます。お得意先はメジロやヒヨドリです。しかし、ヒヨドリは全く心が狭い鳥で、花に集まるメジロを追い散らしてしまうのです。

芝川に出て石橋を渡り左岸に出たところで、川下から水面すれすれに飛んでくる鳥がいました。カワセミではなくイソシギでした。

翼をはためかせて、「チリチリチリ」と鳴きながら飛ぶ姿を冬によく見かけます。名前から海岸にいる鳥と思われがちですが、川でもよく見かけますよ。

ゴイサギのねぐらとなっている場所に行きましたがお留守でした。その代わりにコゲラが目の前で盛んに小枝をつついています。コゲラの雄です。アカゲラやアオゲラのように頭部全体が赤くないのですが、側頭部にチラ、チラと赤い羽根が見え隠れするのが見られました。

第３公園の池に近づくと、ヨシの間からあまり聞きなれない声が聞こえてきました。どうやらクイナのようです。ここでは、冬に時々確認されていますが、なかなか外に出てこないので姿を見るのが難しい鳥です。

ヨシに隠れるようにアオサギがいました。ヨシの根元ではヒドリガモとコガモ、それに地味なオカヨシガモもいました。

水面では、コガモの雄が雌に向かって求愛ディスプレイをしていました。お尻を反ったり、胸を張ったり、伸びをしたり、飛び上がって雌の気を惹こうとして夢中でした。

第三公園西側に、オジロビタキという珍しい鳥が来ているという情報をもらっているので、解散後、希望する方と一緒に見てきました。

数人のカメラマンがレンズを向けている先を見るといました。ヒタキ類の特徴で、目がクリッとして可愛らしい小さい鳥です。動きが速くなかなかレンズにおさめられませんでした。

観察された鳥　アオサギ、アオジ、イソシギ、ウグイス、エナガ、オオバン、オカヨシガモ、オ

ナガ、カルガモ、カワラヒワ、キジバト、クイナ、コガモ、コゲラ、シジュウカラ、シメ、スズメ、ダイサギ、ツグミ、ハクセキレイ、ハシビロガモ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、バン、ヒドリガモ、ヒヨドリ、ホオジロ、ムクドリ、メジロ、モズ　３１種＋オジロビタキ。　（小峯　昇記）

見沼たんぼ地域の会員関係イベント

見沼スケッチ会の展示会の開催

見沼スケッチ会の展示会が、２月１１日（火）～２月１６日（日）に開催されました。これまで高鼻にある旧大宮図書館を使用しておりましたが今回は、昨年５月から吉敷町にオープンした新大宮図書館が会場でした。

スタートしてまだ１年足らずの新図書館ですので、オープン当時の匂いが処々に感じられ、私たちは歓迎されながら展示会場へと進むのでした。中に入ると、冬の静かな明るさが一杯に広がり、実に素晴らしい会場です。

展示会は今回で１３回目にもなり、出展された会員の作品は７６点でした。蓮の花の咲く池、清らかな川の流れ、屋敷林の覆う家々、田植えを終えた水田・・・等々、沢山の作品が並べられ、見沼田んぼの景色が広がります。

題名について見ると「春・夏・秋・冬の「字」を入れた作品」は１８作品もあり、約４分の１の作品が季節を題名にしておりました。これら１８の作品を季節別に分けると、春夏秋冬の順に６，２，８，２の作品数となり、秋の季節が筆頭です。おそらく秋は、絵を描く人たちの心に、目に写るものが強く響いてくるのでしょう。

会場内を一巡すると、現在の見沼田んぼの様子を、スケッチ画を通して改めて知ることが出来ました。見沼田んぼのこうした様子を次の代の人たちに伝承して行くことも必要なことであります。こうした面において、見沼スケッチ会の皆様の活動こそは尊いものと教えられるのでした。

（召田　紀雄記）

見沼たんぼ緑地の自然観察会

NPO 法人自然観察さいたまフレンド(代表理事小野達二)は自然保護事業の特別非営利活動法人である。その活動の一環として見沼たんぼの自然観察がある。1月２９日(日)見沼自然公園に於いて第257回自然観察会が開催された。テーマは「野草の越冬スタイル」である。冬枯れの公園で、緑の草群を探すのも簡単ではないが、一度見付けると次々に追掛けられる。主な観察対象は、普段よく見掛けるタンポポ・ナズナ等の越年生の「ロゼット植物」で、「根生葉(地面に近い位置にあり根から出たように見える葉)」を放射状に拡げ、冬の太陽エネルギーを蓄えて春季に備え、他の植物に先駆けて生長する生活様式を持ち冬に緑を際立たせる植物群である。葉群を地表すれすれに展開することから、他の植物からの被陰に弱いが、冬季に背の高い野草が枯れるので、その心配はない。また、寒・強風からは地表に放射状に展開すること、更には地熱を巧みに活用できる利点もある。この公園では、ナズナ・ハルジオン・オオバコ・ユウゲショウ・アメリカオニアザミ(写真右)等３１種観察する。

ロゼット植物には３つのタイプがある。①花茎に葉を付けないで根生葉が残る種(ロゼット：オオバコ・タンポポ等)。②花茎の葉を付け、根生葉は残る種(偽ロゼット：ナズナ・ノゲシ等)。③幼生の時、ロゼットで生育し、その後は他の生育型で過ごし根生葉を残さない種(一時(部分)ロゼット：ヒメジョオン等)である。また、公園には落葉樹もかなり植えられており、冬芽・葉痕・維管束痕の観察も行っている。

(若野　忠男記)

見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

絵と解説　　八木一郎

東沼神社の富士塚

東沼神社は古くから浅間神社として存立していたが、１９０７年近郊の７社を合祀して再建されており、見沼代用水東縁と第一調節池に面する高台にある。境内には高さ８ｍ・周囲３０ｍの富士塚が築かれており、頂上から富士山、秩父連邦が遠望出来る。

氷川女体神社の神橋

氷川女体神社は　田んぼを見下ろす高台にある古社。見沼干拓により見沼を御手洗瀬としていた「御船祭」が行えなくなったので、新たに新田の中に山を築き周りを池にした柄鏡形の祭礼場を作り、１７２９年（享保１４年）ここで代替の盤船祭として行うことになったが、約１４０年後の江戸時代の終焉と共に廃止された。

現在「氷川女体神社盤船祭祭祀遺跡」として市の史跡に指定されており、２０１８年（平成３０年）５月４日関係者の熱意によりこの行事が再現される。

春の季節、神橋が架かる見沼代用水西縁の両岸は満開の桜で包まれ、川面には往く春を惜しむかのように桜の花が花筏となって流れゆく。

大宮第二公園（さいたま市大宮区寿能町）

治水対策として作られた第七調節池（瓢箪池）を中心に１９８０年に開園された。敷地面積は２３．５ha。池の周囲には芝生広場があり、市民の憩いの場所となっている。

春のころは桜が咲き乱れ、柳の緑が彩を添える。公園の北西部には５００本を超える紅白の梅林があり、毎年「うめまつり」が２月に開催されて賑わう。

見沼たんぼくらぶ会員作品展

浮島のある大きな池（見沼自然公園）

作者　　大地　宏雄

ゆとりのある芝の広場と深みのある木立にその際まで囲まれた大きな池。四季の変化に迫られながら、凛とした姿を通す浮島は公園のシンボルです。

見沼たんぼ探訪記

さいたま市農業祭開催される

さいたま市農業祭が１１月１６日（土）、１７日（日）の両日、市民の森グリーンセンターで開催されました。晴れ渡った晩秋の空の下では、子供と一緒の家族連れや恋人同士の若者等が大勢集まり、大賑わいでした。

この祭りは、市内で農業に従事されている皆さんが、丹精込めて作った野菜、果物、花き、植木、農産物加工品等々の直売会です。４２店

という沢山なお店が出店していましたが、この他に、友好都市として福島県・南会津町や新潟県・南魚沼市の皆さんのお店も特別参加され、現地からの特産品を販売しておりました。特設ステージでは、民謡やキャラクターショウなど各種のイベントも行われ、会場は「祭り一色」といったところです。

こちらでは、陳列台に大根等、色々な野菜を積み上げて、「イラッシャイ、今朝採れたばかりのキャベツですよ・・・」と威勢の良い若衆の大きな声が聞こえてくる。

あちらでは、パンジー、ビオラ、ジュリアン等々、色々な花々を売っている。さらに、タコヤキ、オデン、ヤキトリ等々、食べ物を販売するコーナーもあって、香ばしい匂いが漂ってくるのです。

買い物を済まされた皆さんは、大きなビニール袋を両手に下げ、重そうな足取りで会場を去って行くのでした。どの方の顔を見ても、笑みを一杯に浮かべており、会場での買い物に大層満足されたようす。　　（召田　紀雄記）

日光お成り街道を歩く（見沼代用水に沿って）

日光御成街道とは、歴代の将軍が徳川家康の霊廟に社参する時に多く使われた道である。
このルートは途中に岩槻城があるので、将軍の宿泊・警護に都合が良かったのだろう。
江戸城を出て、東大農学部の所で中山道と別れ、さいたま市内に向かうと旧大門宿に入る。　ここには本陣と脇本陣の立派な門が残っている。

しばらく歩くと左側にさぎ山記念公園がある。江戸時代には特別天然記念物に指定されていた大規模なサギのコロニーであったが、現在はその面影はない。

街道は緑区から見沼区に入るが、当時を物語る松や杉の並木も今はなく、将軍の休憩所となった光徳寺や少し先の、膝子の一里塚に来て初めて街道の面影を味わうことができる。

街道の一里塚というものには道の両側に小高い塚が築かれ、目印となる樹木が植えてあるが、ここは右側にエノキが残されているだけである。

街道のすぐ西側には、見沼代用水東縁が伸びていて土手には２０キロに及ぶ桜回廊が連なり、さいたま市の名所となっている。

桜の季節が終わるとまもなくして、ノアザミが咲き誇り、秋には彼岸花が通船堀あたりまで繋がり、街道を歩く人や見沼たんぼを散策する人たちの目を楽しませている。

一里塚の先にある満蔵寺には板石塔婆があり、古い道標が残されていて街道の痕跡を知ることが出来る。やがて街道は岩槻を過ぎ幸手で終了となる。

（佐々木　明男記）

見沼たんぼの仲間たちNo. 53

見沼グリーンセンター主催の援農ボランティア活動をご存知ですか・・・

鑓水　和夫

4 年前還暦を迎え、生活を変えたいとの思いから退職を機に、母の介護と自分がやりたかった自然に触れる生活をするために埼玉に戻ってきました。市の広報を見て、たんぼくらぶと同じ頃に見沼グリーンセンターが実施している援農ボランティア事業農業研修に参加しました。今回この活動をご紹介します。

援農ボランティアは農家の繁忙期に基本ボランティアで応援します。この研修にはベーシックコースとステップアップコースがあります。

ベーシックコースは、期間が 1 年、月 2 回程、半日です。座学と農園の管理作業を行います。参加者は農業関連の仕事をしている人、農業に興味ある人・主婦等様々なアクティブなシニアの方たちで、私が参加したときは女性の参加が多くありました。

研修期間中、栽培している作物がすぐ生長し 2 週に一度では巨大なナス・きゅうり・オクラ・実の割れたトマト等たくさん出来ました。じゃがいも・さつまいも・里芋等は一株からたくさんの芋が出来たのには驚きの連続でした。夏バテ、慣れぬ鍬を使い腰痛になるなど、苦戦もしましたが、作業の大変さ、収穫の楽しさを経験でき、あっという間の 1 年でした。

（ミーティング風景）

現在、私が参加しているのは修了生が集まるステップアップコースです。

講師をお呼びして、修了生２０数名が集まり農園の一部を借り、週一回の活動になります。昨年はカラスがトウモロコシを食い荒らしたり、枝豆の実が入らない予想外な事もありましたが、毎週たくさん野菜を持ち帰りできました。講師巡回やリーダーの指導のもと、援農情報や栽培・作業のコツを聞くことができ、腕前がめきめき上達（？）しました。個人で畑を借りる経験とは違い多くの知識が得られました。

ステップアップとは別にグループ内で、月 1 度のそば打ち・寒い時期の味噌づくり・下町散歩・ハイキング等仲間との交流があり、シニアパワー全開です。

（1 月の農場風景）

ベーシックコース終了後はボランティアに登録応援に行くことができます。個人個人の事情に合わせての活動になります。見沼グリーンセンターでは、登録ボランティアの数や農家からの依頼件数の増加、気軽に参加できるよう農家さんとのマッチングに取り組んでいます。私は介護の関係上、まだ援農ボランティア活動の一つ、親子体験学習の参加だけですが、もっと参加を増やしていこうと思います。

この事業は、例年市報 2 月号や WEB に掲載されています。興味ある方はご参加ください。

※ 残念ながら今年の分は終了しています。

見沼たんぼを支える農家さん

「駅チカイチゴ園 GREENPEACE」備藤大樹さん

さいたま市内で、駅から歩いて６分ほどの所でいちご狩りができる！その名も「駅チカイチゴ園 GREENPEACE」。最寄りの駅、東川口駅は武蔵野線と埼玉高速鉄道が交差しています。駅前通りを美園方面に進むと、左に折れる長い上り坂があります。坂を上がって道なりに左に行くとすぐに大きなビニールハウスが目に留まります。入ると、まず明るく広々とした休憩もできる受付棟。その横に２棟あるいちごのハウスはそれぞれ１反の広さがあり、摘み取りしやすい高設ベンチがゆったりとした間隔で並び、屋根も高く、床やベンチを覆うシートの白さが爽やかです。

備藤さんの家は植木を生産する農家ですが、大樹さんは違う道を選び、東京のアパレルメーカーに勤めていました。でも 30 歳頃、代々受け継がれてきた実家の農地をどうしたらよいかなど、先のことを考えて何か新しいことをやりたいと思い、ビジネスパートナーとして選んだのが「いちご」でした。

（備藤大樹さん）

この先、３０年を想定してみて、需要として求められる形は変わるとしても「いちご」そのものは無くならないだろう、と考えたからです。

そこで「駅から近い」という立地を生かして、ファミリー層だけでなく、大学生などの若い人や主婦のグループも気軽に立ち寄れるいちごの観光農園を思い立ちます。2 年ほど市内のいちご農園などで研修した後、2017 年 12 月にオープン。

アパレル勤務時代の経験を生かして、ホームページや SNS を活用して情報を発信。幸いお客さんは順調に増えて、やはり歩いて来る人のほうが車で来る人より多いそうです。食べ頃のいちごが無くなってしまったら、申し訳ないけれどその時点でその日の営業は終了。受付状況などは随時 HP で更新しているので、来園前に必ず確認してください、とお願いしているそうです。

摘み取りの時期が終わると、次のシーズンの準備に入ります。株を取り去った後、栽培に使った土は水を張って、夏の太陽熱を利用して消毒。その後、9 月には親株から増やしたランナー（ツルのように伸びてくる茎で、先端に新しい子株ができる）を植え込み定植させます。そして次のシーズンに向けて、大きくておいしい実をつけるよう世話する日々が続きます。

（大きないちごは一粒で片手一杯になるくらいのものも　！）

時代の需要に合わせて変わっていければ、と語る備藤さん。これからもいちごと一緒にどんなかたちを描いていくのか、春の光が穏やかに差し込む中、緑の葉があふれる間から下がった大きないちごの実が、真っ白いシートの上で眩しいほどに赤く輝いていました。

取材：　島田由美子・高橋いずみ
文責：　高橋いずみ

駅チカイチゴ園：緑区大門 666　TEL 048-878-0658
10:00～15:00（月・火・金定休）

＊　いちご狩りは先着順です。料金は時期によって異なります。その他詳しくは、以下のＨＰでご確認ください。

HP:http://greenpeace-ichigo.com/

見沼たんぼくらぶのイベント案内

令和２年度見沼たんぼくらぶ総会

日時：４月１８日（土）１０時
会場：見沼グリーンセンター２Ｆ中会議室
交通：ＪＲ宇都宮線土呂駅東口から徒歩
約１０分（見沼代用水西縁の東側）

見沼ふれあい農園づくり

《京芋・里芋・八つ頭・生姜栽培》
新３号地（緑区南部領辻字三角下）
会員限定・申込制・無料（福祉施設・保育園に寄贈）
＊スタッフが事前に耕し、畝づくりを終え、植付・除草・収穫の農作業です。

① ４月２３日（木）種芋植付
② ５月２８日（木）除草
③ ６月１１日（木）除草
④ ６月２５日（木）除草
⑤ ７月　９日（木）除草
⑥ ９月　３日（木）除草

晩秋の収穫日は後日決めます。
８時集合（７時３０分より受付）
雨天順延
申込者には案内図を郵送します。

第８１回見沼の自然と史跡を訪ねて

日時：５月２３日（土）９時３０分
集合地：見沼自然公園休憩ロビー
（管理棟・ＷＣの向かい側）
コース：見沼自然公園…深井家長屋門…
さぎ山記念公園…加田屋新田（ノアザミ）
…旧坂東家住宅　１２時３０分
申込み：当日、集合地で９時より受付
参加費：￥５００（ただし、会員は無料）
交通：大宮駅東口からバス⑦「締切橋」下車
南側、（乗車時間約３０分）

当会への支援金について

大宮シニアライオンズクラブは、当会に対して下記の金額を支援してくださいました。同会は、
￥３０，０００円也
「豊かな経験と英知を社会に」というスローガンのもとに市民と共に奉仕活動に努めています。
見沼たんぼくらぶに団体会員として加入、年中行事とし「みぬまふれあい農園づくり」に多数の会員を派遣、老人パワーを発揮しています。

会員の主宰するイベント情報

見沼たんぼの春の七草と
斜面林のキンラン・ギンラン

日時：４月２９日（水・祝）９時～１２時
集合地：東武アーバンパークライン（野田線）
大宮公園駅前
解散地：大宮公園　　参加費：￥５００
申込み：集合地で８時３０分より受付
主催：ＮＰＯ法人自然観察さいたまフレンド

見沼たんぼくらぶ会員募集

見沼たんぼをもっと知りたい
見沼たんぼの自然にふれてみたい
見沼たんぼ保全に協力したい
そんな皆さまをお待ちしています！

◆ 埼玉県土地水政策課の支援のもとに、見沼たんぼ緑地で、様々の体験事業を展開し農園づくり／自然観察ハイキング／清掃ボランティア／見沼塾などにて活動
◆ 季刊『みぬま通信』（総カラー）郵送
◆ 年会費　１口￥１，０００
個人（同居の家族単位）：
１口￥１，０００以上
企業・団体：３口￥３，０００以上

みぬま通信第 82 号

発行日　令和２年月４月１日
発行所　見沼たんぼくらぶ
〒３３７－００５３　さいたま市見沼区大和田町
１－２１２４－３　小野方
TEL・FAX　（０４８）６８３－１７６４
E-mail　t.ono@axel.ocn.ne.jp
ＵＲＬ　http://minumatanbo.web.fc2.com/

© 2020 Minuma Tuusin